

〈事業報告〉

コロナ禍の講演会事業

―滋賀の文化財講座「花湖さんの打出のコヅチ」サテライト会場の設置について―

田 澤 梓

コロナ禍の現在行われている講演会は、多くは定員を減らすか中止、またはYouTube配信などのオンライン上の試みがなされている。当館の文化財講座では、県内市町の施設を「サテライト会場」として設置する事業を実施した。

1. 滋賀の文化財講座「花湖さんの打出のコヅチ」について

サテライト会場の取り組みについて述べる前に、まず当館における文化財講座について紹介したい。

平成十八年に当館と滋賀県教育委員会が連携主催して当館学習室を会場として始め、平成二十年の休館後は会場を外部に移し毎年開催している(一)。近年は、定員二百名のコラボしが21大会議室を会場として、各回百名以上の参加があった。

新型コロナウイルス感染症が蔓延する令和二年度からは、密にならないように空席を設けるため、定員を百名としたほか、参加者には手指のアルコール消毒や当日の体温を記入する講座参加表に記入していただくなどの対策をしている。なお今年度の講座テーマや日程などの概要は、本誌年報の「活動報告」を参照されたい。

2. 検討過程から実施まで

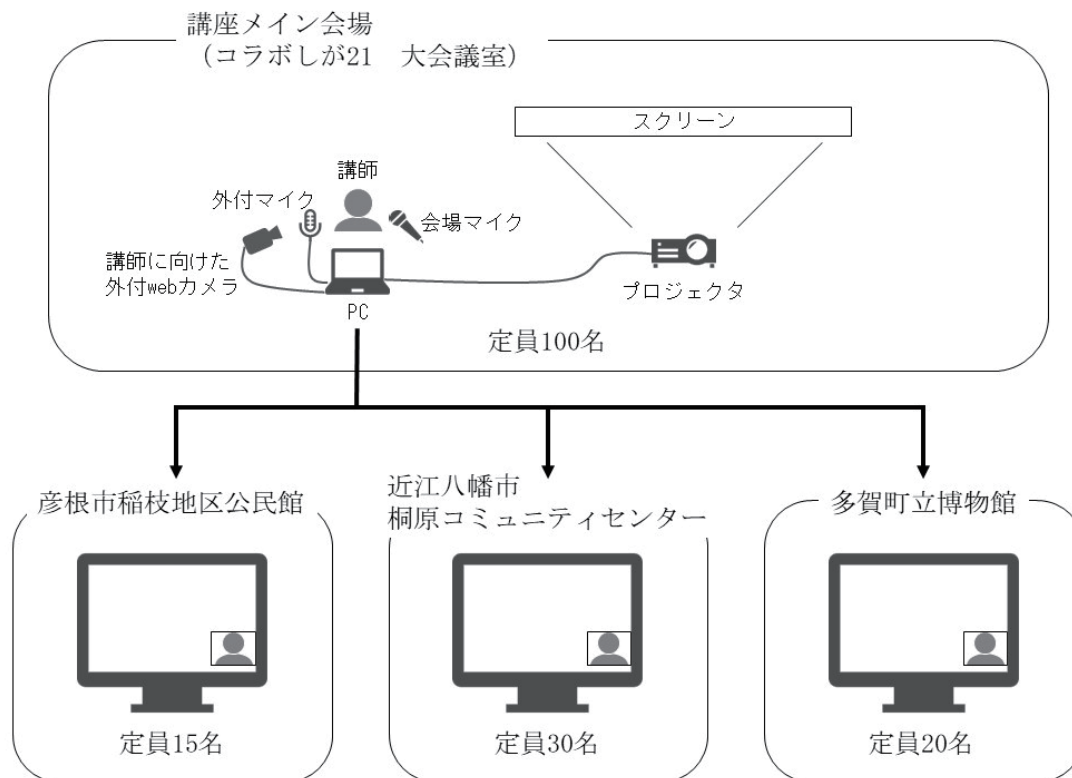
本稿で話題にする、サテライト会場へのオンライン配信(以下、「本事業」と記す)は、いまだ終息の見えない新型コロナウイルス感染症への

対策として、当館と滋賀県文化財保護課文化財活用推進室が令和二年度に発案し、令和三年度に本格的に実施した事業である。

本事業の検討に際しては、個人へのオンライン配信を実施するか否か、たびたび課題としてあがった。しかしながら講座で扱うテーマは寄託品や県内社寺等の当館以外が所有する文化財が多くあることから、二次利用されてしまう可能性が生じる個人への配信はしないと結論付けた。したがって、管理者を置いたサテライト会場を設け、コラボしが21大会議室の講座メイン会場と同様に、「スライドは写真撮影禁止」等の制約を設けた。

このように、会場の管理運営の詳細や、申込方法(各サテライト会場で受付)、当日の配布資料(事前に当館からデータ送付し印刷していただく)など、ある程度の運営概略を計画し、各回のテーマとともに令和三年三月に県内市町へ照会をしたところ、複数の市町から参加意向があり(二)、調整後は五市町にサテライト会場を設けることとなった。なお、文化財講座ではA4サイズ両面刷りの周知チラシを例年作成しているが、会場や申込方法等の情報量が過大な本事業について追加したため、編集作業には大幅な時間を要した。

当日はウェブ会議ツールのZOOMを用い、構成図のように講座メイン会場とサテライト会場とをオンラインでつないだ。講座メイン会場でスク



構成図（第2回の例）

また、八月二十六日から九月三十日まで発令された緊急事態宣言を受け、第四回と第五回を延期して開催することとした。延期を決定した当初は、すべてのサテライト会場との日程等の調整が困難と考え、延期した第四回のサテライト会場は一律で中止することとし、サテライト会場参加者のため講座メイン会場に別室を設けて対応した（しかしながら先述のとおり適正な音声を流すことが困難であった）。延期した第五回のサテライト会場は調整がついた会場のみ実施し、中止会場の参加者は講座メイン会場で受け入れた。

リーンの映すスライド (Microsoft PowerPoint) と同じものが zoom の画面共有機能によりサテライト会場にも流れ、サテライト会場では講師の顔が小さなウィンドウに表示された。なお音声については、講座メイン会場のマイクと、サテライト会場向けの外付マイクの二方面に対する音声が必要で、その両方に適正に流すことが全ての回を通じた課題となった。



講座メイン会場の講師



サテライト会場の様子
(彦根市稲枝地区公民館)

本事業はサテライト会場が多数であればあるほど幅広く多数の参加者が見込め事業としての効果が高いといえるが、こうした調整時には弊害が生じるとも考えられる。サテライト会場の適当な会場数は今後の検討課題であらう。

3. 成果と展望

本事業は、感染症対策として密にならないようにする目的のほか、中央に琵琶湖が位置することから南北および東西で行き来しづらい滋賀県の地理的な特性への利点も挙げられるだろう。実際サテライト会場では、遠方の講座メイン会場へ足を運ばずに聴講でき好評だったと感想をいただいた。

感染症対策として始めた本事業であるが、感染症の終息後も、県内はもちろん県外、さらには海外も視野に入れ、様々な施設と連携することで、より広がりのある事業になる可能性がある。

(たざわ あずさ・滋賀県立琵琶湖文化館学芸員)

註

- (一) 詳細は研究紀要第三十四号(平成三十年)で報告されているとおり。
- (二) 特に所蔵者の所在地など、各テーマと関連する市町からの参加意向があった。